

令和4年8月9日 議会改革特別委員会 議事録
10時01分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中真樹雄、小田上尚典、北地 範久、
日域 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 なし

○傍聴者 なし

○網谷委員長 皆さん、おはようございます。

定足数に達しておりますので、これより議会改革特別委員会を開会いたします。

第2回アンケート実施に全議員16名の方に参加いただき、本当にありがとうございました。

また、今回の進行方法でございますが、前回の休憩時の協議方法と少し異なり、というのも、ホームページ掲載の関係上、出席依頼という形での協議をさせていただくことに御理解をよろしくお願いいたします。

それでは日程に入らせていただきます。

日程第1、第2回議員定数問題に関する全議員16名の議員アンケートの意見交換とさせていただきます。

今回は事前通告もありますので、質問から答弁ということになりますと、時間が予定よりかかるかも分かりませんが、その辺のところは皆様方の考慮の上、質問、また答弁のほうもよろしくお願い申し上げます。

それでは早速、4名の方から通告が出ておりますので、順次質問、また答弁のほう、していただければと思います。

順番でございますが、議員番号の若い方からさせていただいてもよろしいでしょうかね。

それでは通告が出ております末広議員から、質問のほうよろしくお願いいたします。

末広議員。

質問はサイドボックスのほうに載っておると思うんですが、皆さん質問はいいから答弁だけするという言われればそれでもいいですが、どちらにしましょうか。

(発言する者あり)

○網谷委員長 委員会ですので、起立でよろしくお願いいたします。

それじゃあ質問者の方の、口頭での質問のほう、よろしくお願いいたします。

○末広議員 トップバッター、よろしくお願いいたします。

事前通告させていただいていますとおり、定数減と回答されている方にお聞きいたします。

前提として、私自身定数減そのものに反対しているわけではございません。もともとは議員になる前も、定数減ってという考えではいたんですけれども、実際議員になってみていろいろ学ぶ上で、委員会も参加させていただく上で、このままだと進められないなと感じましたので、今回は現状維持で出させていただきます。

定数減の回答、アンケートを見せていただいて、数や理由にしても皆さん、定数減派の方もばらばらと感ずます。理由も様々で、一つ一つの理由は理解はできるんですけれども、その理由一つ一つを煮詰められているのかというのが非常に疑問に感じております。

例えば、定数減になれば確かに経費が削減できますと書かせていただいていますけれども、じゃあ定数減、経費削減できた分、どう有効活用するのか、そういうところまで話し合えているのか。定数減派の方々にそれを煮詰められて議論されているのであれば、それをぜひ詳しくお聞きしたいなと思っております。

質問は以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ということで、定数削減を主張されている方の説明をお聞きしたいということで、削減を主張されている方、説明はされておりますが、それに口頭で付け加えるなり省くなりまして、今の質問に答えていただければと思います。

6名おられますので、議員番号の若い方から。よろしくお願いいたします。

議長。

○賀屋議長 大竹市民のためになるかという本質を議論されていますでしょうかという御質問。これは確かに、削減をすることによって、いわゆる経費も削減されるということには間違いはないんですけれども、具体的にその削減された経費が何に使われるのかとか、どういうメリットがあるのかということまで、そこの言われる本質の議論にまでは当然至っていないというのが現状であります。

削減しない状態、現状のままでも市民のためになるのかということについてどのようにお考えなのか、逆に聞きたいんですが。削減と削減しない場合、どのように市民に対してなるのか、ならないのか。その辺のお考えがあれば逆にお聞きしたいと思います。

○網谷委員長 ちょっと失礼します。今の質問から答弁という流れになるんですが、これ、一つ一つ質問される方に対して、また答弁者が質問されるという形になりますと、かなりの時間がかかろうかと思うんです。私のイメージとすれば、まずは質問者が答弁者に答えていただき、最後に質問者が簡単にコメントいただければと思っていたんですが。

小中委員。

○小中委員 これはあくまでも意見であり見解なので、言い合いをやられても、ちょっと困るので、こう思うで答えたらいいんじゃないですか。自分の信念に基づいて意見を書いているので、あなたの意見は分かったと。皆さん個々人の意見があつていい。私は結局、結論は何かって言ったら、どこに丸しとるかっちゃう話なんやからね。最終的にはそこに収れんされていくわけやからね。

それを延々とやったところで、私はもう勘弁してほしいなという思いがあります。ちゃんと自分の意見なんやからね、それは違うやろうと。

あくまでも、これは意見であって、何じゃかんじゃ言うていちゃもんつけたところで、どうにもならんわけやからね。個々人が、16人が自分の信念と良心に基づいて文書を出しているのに、そのどこが悪いんやと。意見が違うのはそれはそれでええと、民主主義なんやからね。だから、その意見は意見として尊重したらそれでええ、尊重すればいいだけの話なんやからね。

ほんで、意見が変わる人っていうのは多分いないと思うんですよ。なので、それを延々とやることの意味っていうのは私は思いませんので、答えろっちゅうんならその定数削減派の6人に聞くのは、それなりに答弁すりゃええだけの話やと、私は思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

要するに、この文書には削減者の方も、そのほかの方も一応書いとるんですが、このたびは口頭で、確認のためというぐらいの程度にしておきたいと思うんです。今の、議長が逆質問という形になったんでね。これを延々とやりますと大変な時間になりますのでね。まず今回の削減の方の6名の意見を、聞かせていただきまして、それから最終的に質問者がちょっとコメントいただければという形にしたいんですが、それでどうでしょうか。いいですか。

中川委員。

○中川議員 それをやると、また、ああだこうだになると思うんで、質問を前もっていただいているので、質問に答えるように16人が順番に、話して終わったらどうですか。

末広議員の質問に6人だけ言ったんですけど、質問みんないただいとるわけですから、もう順番に16人が全部、自分の意見を、質問を踏まえたことで答えていったらどうでしょうか。

○網谷委員長 それもまた討論になってもいかんのですが、それをやりますと通告された方の意味があまり分かってなくなりますのでね。皆さんに聞いてみな分かんのですが。

小田上委員。

○小田上委員 まず通告をして、このルールでやりましょうと決めましたよね。この通告のルールで通告されている方の質問を先に答えていくっていうのが、スムーズなんだろうと。

先ほど議長が、だったらこういうのはどうだろうって聞かれたのは、通告にないので、時間に余裕があるとか、一段落ついてからのほうがいいのかと。中川議員が言われた件については、削減の方についてお聞きしますと、末広議員がそう書かれているので、現状維持としての意見は述べられますけど、ここに対しての意見というものが、具体的なものを言っても同じような、似たようなことの繰り返しになると思いますので、質問された方が答えるという流れを、まずやってあげるのがいいのかなとは思いますが。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ということで、まずは削減の意見を出されました6名の方の意見を、発言していただければと思います。

今、議長が発言されましたので、2番は原田委員になりますね。よろしくお願いします。

原田委員。

○原田委員 その前に、前回の委員会で、自由な意見交換をしようということが決まっ

たと思うんですけど、その自由なというのが、今の委員長の話だと、通告が出ているものに対して回答すると。それをずっと続けていって、最後にまとめて自由な意見交換ができるという意味に捉えてよろしいですかね。

○網谷委員長 ちょっと意味がよく分かんのですが。

みませんが、もう一回、言ってみてください。

○原田委員 前回の委員会で、自由な意見交換をしようという話だったと思うんですけど、自由という言葉が使われたので、私は先ほど議長が質問に対してまた逆に質問されるというのもありなのかなと、感じたんですが、それが駄目ということになったときに、自由な議論、意見交換をしようというのが後回しになって。最後のほうで自由に意見交換ができるという意味なのかと受け取ってよろしいのかということです。

○網谷委員長 原田委員が今言われたことは、今皆さん了承していただきましたのでね。そのことに答えていただきたいんです。

時間があれば、意見交換をしたいと思います。お願いします。

(発言する者あり)

○網谷委員長 児玉議員。

○児玉議員 小中議員にももちろん賛成なんですけど、自由討議といっても、この場はけんかを売る場所じゃないんですよ。その人の価値観というのが個人個人で違うので、まず質問に対する答えだけを的確に、削減の人が回答して、その後にまた物事というのは考えていったほうが、きれいに進むんじゃないかと思うんですけどね。

○網谷委員長 ありがとうございます。

そういうことで、まずは末広議員の今の質問に、的確に簡潔に答えていただければと思いますので、原田委員、よろしくお願いします。

原田委員。

○原田委員 私、委員ですので、委員会の中で補足的な発言をしようかなと思ったんですけども。

ここに書いているように、財政力はあっても現在財政難であり、これがしばらくの間続くと思われますので、そういうことも含めて1名削減することによって歳費の削減、それから、議会事務局も議員15名になれば1人職員の削減であるとか、視察とか、そういうものの見直しとかいうものを含めて、議会費全体の予算の縮小につながっていると思いますので、現状維持と比較して削減すると、そういうメリットはあるんじゃないかと思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

次に、小中委員、お願いします。

○小中委員 私は財政面とかなんとかというよりも、無投票は市民のためにならないんでね。次どうなるかは分かりません。ただ、十分に無投票にならないことを担保にして、それで定数よりたくさんの人が立候補して、例えば例に書いておりますように、江田島市が5人落選して、うち3人現職ですよ。

ということは、そこで選挙自体は活性化されているし、新陳代謝ということも行われる

わけで、議員定数を減らすことによって、議員における緊張感も出てくるだろうと私は考えております。

次どうなるか分かりませんが、私は定数削減をすべきだと書きました。これはあくまでも個人的見解で、実際そのように定数を減らしたからといって、ちゃんと見識のある人ばかりが当選するかどうか、それは分かりませんが、少なくとも、そこに願いというか願望を込めて、自分がその5人の中に入るかも分かりませんが、もうちょっとちゃんと選挙に、市民も含めて向き合うということが必要だと、私は考えます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

次は、児玉議員ですね。

○児玉議員 私は2名減ということで回答させていただいたんですけど、そもそもこの議会基本条例に、議会は市民から直接選挙で選ばれた大竹市議会議員であるとして書いてあるわけで、前回16名で無投票になったと。現状維持16名にして無投票であった場合、市民は議員を選ぶ権利が全くなけると。そういうことでは困るので、2名減にして14名ということで。この14名の根拠といたしましては、私は総務文教委員会の委員長をさせていただいて、その中には亡くなられた山本議員さんも含まれておりました。

7名で委員会を結構やったわけですが、皆さん一生懸命、1人足りない分を努力してカバーして、それなりに委員会は何もなく過ごしてきたと、私は思っております。決算特別委員会のときも山本委員は1日しか来られなかった、それも半日。でも、皆さんが執行部に一生懸命質問していただいて、山本委員がいない分をカバーしてしっかりやってくれて、7名でも大丈夫じゃったなという感じを持っております。

バランスとして、総務文教委員会が7人でできたんですから、生活環境委員会のほうも皆さんが努力してやれば、7人でできると思うんです。1人減とかありますけど、1人減にするとバランスが取れない。委員会にしても何にしても、それは条例とかなんとか変えて、議長を両方の委員会に所属させないとか、いろんな方法で7対7にする方法とかあると思うんですけど、それをすると今現在間に合わないということで、2名減とさせていただきました。

やはり選挙というのは市民が選んで、市民に選んでもらってこそ議員だと思っておりますので、2名が妥当だと考えました。14名にしても、次選挙があるかないかは分かりませんよ。それは皆さん高齢になつとるし、病気を抱えておられる方もおるし、いつどうなるかも分かりませんが、定数16から14にしてまた無投票であったと言われれば、市民の方もある程度は納得してくれるんじゃないかと思って、2名減にしました。

末広議員の回答なんですけど、大竹市のためになるかという本質ですね。本質というのは、私は選挙をすることだと思っております。終わります。

○網谷委員長 ありがとうございます。

次に、山崎議員、お願いします。

山崎議員。

○山崎議員 ありがとうございます。私も2名減ということで、アンケートに答えさせていただきました。

初めに末広議員の質問にお答えしたいんですが、1項目めの、本当に大竹市民のためになるのかという本質、議論をされていましてでしょうかということですが、今回の議会改革特別委員会で議論をされてきたということは、皆さんも認めるところでございます。ところがこの議会改革特別委員会においては、一本化された結論が出なかったということが、今のアンケートの状況になっとるんだろうと思います。

以前、私の減らすべき理由の中にも書きましたが、平成15年の議員定数が20名から19名になった。その後16名ということで、現在まで4回の市議会議員の選挙を過ごしてきましたが、その間人口も減りまして、2万6,000人余りとなった状況の中で、議員1人当たりの人口が1,600人余りという状況になっている。

前回、18名から16名に削減したときの議員定数を審議する委員会においては、おおむね2,000名の市民を、1人の議員の対象とするという答申が出されておったように思います。そういったことから考えてみましても、現在の1,600人余りというのは非常に少なくなっていると考えました。

そのときにも議論はなされたと思います。当然、全員一致で16名になさったということがあります。それ以後、議員定数の問題について議会で議論したかということですが、決算特別委員会、予算特別委員会において、議員定数について何回か、私は取り上げたことがあります。

自由記述の欄でも申し上げましたが、議員定数削減の陳情が2回出されておりました。その陳情が出された段階においても、議会の中でしっかりと議論はされたんだろうと。ただ、陳情の趣旨に沿うことができなかったというのが、現在の状況であります。そういったことで、本質を議論されているかということについては、その程度の議論しかなかったということだと思います。

次に、2項目め、定数減になれば確かに経費は節減できると。長期的に見て本当に削減すべき経費なのかということですが、この点については議会基本条例での質問、寺岡議員からいただいておりますので、その辺でも明らかにしたいと思うんであります。私は市民から定数削減の、五千何名の陳情があったと。そういったことについてしっかりと受け止める必要があろうと。

確かに、今回議会報告会においてアンケート調査をしました。しかしそのアンケート調査というのは、議員を目の前にして書いた回答であります。しかも会場に集まった人たちが非常に少数、あるいは議員の血縁関係の方も多かったというような状況の中から見たときに、果たしてその数字が本当の市民の意見だったのかということに疑問を持っております。そのときのアンケートが全て駄目だという意味ではありませんが、そういった事柄も私たちは加味する必要があると考えております。あくまでも五千数百名の議員定数削減の陳情、署名があったということを私は基本的に考えるべきだと思い、そういう結論を導きました。

3項目め、定数減という結論が出たのであれば、そのときは賛成しますということですが、末広議員御存じのように、今のこの議会改革特別委員会の定数問題の審議の状況というのは、全会一致という状況になっておりません。

それから最後の項目の、削減の意見の方々、その議論をされてどう大竹市民のためになるのか、結論が出ているのでしたらそれをお聞きしたいということでありますが、結論が出てないから今のこういう状況だということをお話しして、終わりたいと思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

最後になります。

日域委員。

○日域委員 この質問に1つ答えるって難しいんですけども、議員定数を減らせばいいこともあるでしょうし、悪いこともあるかもしれません。経費節減って言いますけど、日本ではどっちかという、議員って要らないものだ。そういうのがあって、議員の数を減らしたら、いかにも経費が節減されると思っている人が多いのかもしれない。

例えばアメリカなんか見ると、日本よりか議員の報酬が少ないですね。その代わり公設秘書が山ほどいますよね。郵便でも、自分が国会の郵便局で出せば無料ですよ。日本は現金もらうから、何もしない人はポケットに残るんですね。

例えば議員がすごく減る代わりに、議会事務局を充実させるということもあります、ある意味ではね。今、ルール上は、もう法律上に定数についての条文はなくなりましたから、全く自由なんです。いろんな事例を調べてみて、平均点は出せますけれども、人口の割に、議員の数の多い町、少ない町があってみたり、意外と傾向が出てこない、ばらけている。それはまさにその法律が、自由にしろって決めたわけですから、それがそこで具現化してるんだと思います。

だから多様な議論があってもいいと思いますけれども、今この場でいろいろ大変じゃないですか。これ、8名だったらシンプルですよ。私の頭の隅っこにずっと以前からあることが、パーキンソンの法則っていうのがありまして、一般的には公務員は自動的に増殖するっていうことで有名なんですけれども、その中に、議会、委員会は、5人ぐらいが最適だっていうのがあるんです。それがずっと、5人ぐらいだったら議論が活発で中身があるものになるっていう。

だから、本会議があって、委員会って分けてあるのはそういうことでしょうね。特に大竹なんかは少ないですけども、もっと大きな町だったら、本会議でやるって、議論になりませんか。話合いをするのであれば人数はある程度少ないほうが、効率がよくて話が深まるという一般論というか、そういうものを私は感じております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

以上、削減派といいますか、削減の意見を出されておりました6人の方に、口頭で説明を受いただきまして、ありがとうございました。

末広議員、6名の方の意見を聞かれたと思いますが、何か感想があればお願いします。

○末広議員 感想というところなんですけれども、私の質問の仕方も悪かったのかなと正直思って、反省はしてるんですが、結局ばらばらな意見なんですね。まとまっているわけではない、一人一人の意見だなというのが感想ですね。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

以上、末広議員の質問は、終わらせていただきます。ありがとうございました。

次に、原田委員の、3名の方への質問であります。趣旨説明していただければと思います。

原田委員。

○原田委員 まず藤川委員に質問なんですけど、議員定数について聞き取りアンケートをされたということで、大体何人の方にアンケートをされて、どのような現状維持の理由があったのかというのを教えていただけますでしょうか。

○網谷委員長 藤川委員。

○藤川委員 原田委員、質問ありがとうございます。

まず人数ですよ。私、LINEグループ、あとSNSのグループとかが今あるんですけども、そのグループが約200人以上のグループがあって、それに一括で質問をしました。まずLINEでは200人以上、対人では100人以上、合計300人以上の方にこの質問しております。

アンケート結果、議員定数現状維持の理由は何かと。なかなかこうやって対人で話した方、困っておりました。現状維持という方はかなり多かったんですけど、難しい問題ですよ。そういう方がかなりおられました。議員定数についての会話の中で出てきた言葉を、ちょっと言いますね。

やっぱり身近に議員がおったほうがええよねと、地域に議員がおったほうがええよねと。削減したらますます議員が出にくくなるのではないかという心配があるねと。削減しても市民のためになるかどうか疑問に思うと。中でも多かったのが、相談を聞いてくれる議員が多いほうがいいのではないかという声が多かったように思います。

私は、皆さんの意見なりを集約して、皆さんの意見を聞いて、窓口は多いほうがいいのか。かなという意見に、私の中でまとまっております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

原田委員。

○原田委員 ありがとうございます。よく分かりました。

北地委員への質問なんですけれども、過去の議会の中でも、厳しい財政状況なら、無投票にかかわらず議員定数は削減すべきだと思うんですけども、この厳しい財政状況でも、ここの議会の中で削減がなされてなかったという協議というものがいつ頃されたのかということをお聞きしたいんですけども、お願いいたします。

○網谷委員長 北地委員。

○北地委員 私もこの特別委員会に入りまして、いろいろ過去の状況が分からないもので、議事録からまず入っていったわけなんですけれども、過去の議事録もタブレットにも多少は入っているんですけども、入ってない部分で見つけたもので、いつのと言われるとかなりボリュームがありますもので。

その中で、先ほど山崎委員のほうからもお話があった、16名になってから議会の定数削減の陳情があったことがありまして、それが平成19年と平成27年です。財政的には大変厳しい状況になったという中でも、議会としてはやっぱり16名以上は下げられないということとで結論づけられているということから、そういうコメントをこの中に入れております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございました。

原田委員。

○原田委員 よく分かりました。ありがとうございます。

最後に、日域委員への質問なんですけれども、定数8名ということにしますと、先ほど、議論はすごくしやすくなるというお話でしたけれども、1人の議員が持っている知識というものがかなり深く、幅広く、そういうものを有しておく必要があると思うんですけれども、今の選挙制度の中でそういう人を選ぶっていうのはなかなか難しいと思うんです。じゃあそのような人材をどのようにして選挙で選ぶのかということをお聞きしたいと思います。お願いいたします。

○網谷委員長 日域委員、どうぞ。

○日域委員 半数にしなくても、同じようにどうやって選ぶのかという問題はあると思います。出たい人より出したい人っていう標語がありますけれども、その辺りにしておきます。

少数精鋭っていう言い方もありますけれども、少数にしたら精鋭になるっていう、これは再建の神様と一時呼ばれた方がよく言ってた言葉ですけれども、いろんな見方がありますけどね。ただ、最後は民意ですから、どの人をいいと思うかっていうのは、それはやっぱり主権在民であって、有権者が決めることだと思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

以上、3人の方の意見を口頭でいただきましたが、何か感じたことはありますか。いいですか。

それでは3人目の通告をいただいております。

細川議員からよろしくお願いします。細川議員。

○細川議員 たくさん出させていただきました。よろしくお願いします。まずは発言の機会をつくっていただいた委員長に感謝したいと思います。

まず、順番で議長にお尋ねしたんですけど、議長の理由の中に、定数を15名で運営していたときもあったけれども、運営していく中で特段の支障はなかったと。その辺りは具体的に何か、これだから大丈夫というのがあったのかなと。

私自身は、運営そのものに問題はなかったとは思いますが、中身の問題では、運営は流れていたけれども、1人減ることによる、市民の意見の吸い上げという面では、非常に薄くなったのかなという印象を持っているんですけど、その辺で何かお気づきがあればお願いします。

2点目は、議長会においても議論はされていると御紹介がありましたが、せっかくですので、どういった議論がされているのか紹介していただければ、大変うれしいです。

○網谷委員長 議長。

○賀屋議長 ありがとうございます。

それでは1点目の、私が15名の理由として、過去、15名で実際に運営をしてきた事実と
いうのがありまして、それで支障があったかというこの御質問ですけれども、結果として
全て予定どおり開催もし、委員会は成立をしていると。

15名になって、さらに欠席があつて、その委員会そのものが成立しないというような状
況に過去になかったかといったら、そういうことはありませんので、運営上の支障はない
と思うんです。それと議長会において、全国市町村で無投票が増えているということにつ
いての議論が、サイドボックスに資料も上がってましたけれども、今年の議長会の要望、
国や国会議員への要望があるんですけれども、これにおいても3年前とほぼ同じ内容で、
多様な人材の市議会への参画促進に関する決議をやっております。

これは、議会議員の成り手不足について、報酬、労働規制、選挙制度、児童手当、兼業
議員のための所得損失手当の創設、厚生年金制度の加入といった、数多く要望をまとめて、
これは3年前からずっとやっておられます。

特段そのことによって進展があつたということも今のところはありませんし、これは継
続してやっていくということで、全国議長会においても、この議員の成り手不足について、
特に、小規模自治体においては無投票のところは増えていくと。その原因を考えれば、今
言ったようないろんな制度面で改善をすべきじゃないかという提案、あるいは要望をして
いるということでございます。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

細川議員。

○細川議員 議長、ありがとうございます。

それでは藤川委員への質問ですが、これは原田委員への御答弁でかなり分かってきたん
ですけれども、もし何か補足することがあればお願いします。

○網谷委員長 藤川委員。

○藤川委員 細川議員、ありがとうございます。

先ほどの原田委員の質問とちょっとかぶるところがあるんですが、私がこの議員生活3
年間で現状維持を考えるようになったのは、市民の声ですよね。市民の声を市政に伝える
のは、数が少しでも多いほうがいいのかなと。

僕も3年やらせてもらって、やっと少し身近以外の方からも御相談を受けるように、な
ってきましたけれども、やはり身近な方からの相談が一番多いです。これはあくまでも私
ごとなんですけれども、市民の声を市政に伝えるのに、まだ私は3年で経験も薄いので、
同僚議員に御相談したり、アドバイスをもらったりいたします。そういう面においても
議員が協力して、市民の声を市政に伝えていくには、数が多いほうがいいのかなと。

あともう一点、先ほどの原田委員の質問にありましたアンケート、聞き取り調査を議員
活動とするなら、そのアンケート結果ですね、私なりのアンケートですけれども、重く受
け止めております。これで答えになるでしょうか。

以上です。

○網谷委員長　ありがとうございます。

細川議員。

○細川議員　藤川議員、ありがとうございました。とてもよく分かりました。

では原田委員にお尋ねいたします。

まず、成り手不足解消への即効性のある方法が見当たらなかったということで、定数減というのを挙げられておりますが、ということは、無投票になるたびに定数を減らしていくというお考えでしょうか。

もう一点は、人口も減るので定数減と書かれておりますが、定数を定める際の一番の根拠を人口問題と思ってらっしゃるかどうか、教えてください。

○網谷委員長　原田委員。

○原田委員　まず1番目の質問ですけれども、成り手不足解消の即効性のある方法が見当たらないってだけでなく、総合的に定数減と私は書いてたつもりだったんですが、そのような解釈ができていなかったようでしたら、私の書き方が悪かったかも分かりませんので申し訳ないです。それより前の文章の部分も含めて定数減ということを主張しております。

無投票のたびに定数減をしていくのかということですが、今回はあくまでも、前回定数を削減してから、人口4,000人程度減っております。無投票だからといって今回削減と私は主張してなくて、議員だけではないと思うんですけど、それなりの人材を確保しようと思うと、その中で選ばなくちゃいけないということになりますから、人口が減ってくると、その選べる数というのが減ってくるということになりますので、定数減ということで。2番目の質問とかぶると思うんですが、人口が減ってくると、それだけ選ぶなり、出てくるなり、そういう人たちが、その分だけそういう人材というのか、若干少なくなる可能性があるということで、決して人口減だけではないんですが、おおむね人口減というのが一つの根拠にはなっております。

以上です。

○網谷委員長　ありがとうございます。

細川議員。

○細川議員　原田委員、私の読み込みが浅くて申し訳ございませんでした。

ただ、人口要因は一番の根拠というよりも、根拠の一つであるということですね。分かりました。

では、小中議員にお尋ねいたします。江田島の例を挙げていらっしゃいます。具体的にとてもよかったと思うんですが、減にすることによって新陳代謝や活性化が図られたと。先ほど少し具体的にはおっしゃっておられましたが、もう少し、活性化が図られたであろうではなくて、実際にどうだったか辺りを教えてくれると大変うれしいです。

2番目、定数を削減しても市民に迷惑がかからないと。これはどういう点で迷惑がかからないと言われているのか。議会運営に支障を来さないとおっしゃっていますが、議会本来の役割についてどのようにお考えになっていらっしゃるか、教えてください。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 先ほども申しあげましたように、5人のうち3人現職が落ちて、要するに選択肢が広がるっていうのもあるんです。例えば定数16人で17人立候補して、1人大体誰が落選するか分かってる、そういう選挙はおもしろくないやないかというのは当然あるわけです。選択肢を広げるっていう、これに尽きると思いますね。

その次、別に2人減らしても、問題ありませんと。先ほど児玉議員がおっしゃったように、7人でも支障は来さないということで。私は細川議員の見解は否定しないですけども、私はそのように思うということで、私との見解の相違としか言えないと思います。

委員長、あと7分で長崎原爆の投下時刻に当たりますので、黙禱していただければと思います。

○網谷委員長 もちろん考えておりますので、その時間までもう少し続けてください。どうぞ。

○細川議員 小中委員、ありがとうございます。

見解、意見はそれぞれ違いますが、それぞれの立場、お互いの意見を尊重しながらすり合わせて、一つの方向を見出していくというのが議会の在り方だと思っておりますので、見解が違うので分かり合えんと、これ以上話しても仕方がないということはないと私は思っています。いろいろ意見を言い合って、一致しているところ、そうじゃないところを整理していくことも必要かと思います。

では、中川議員にお尋ねいたします。

定数削減は慎重にするべきと書いてくださってはございます。何でそう思われたのかを教えてください。

○網谷委員長 ありがとうございます。

これサイレン鳴るんですかね。長崎の。

(発言する者あり)

○網谷委員長 鳴らない。

それじゃ、中川議員の答弁で一応区切りたいと思います。どうぞ。

○中川議員 ありがとうございます。

私は昨年のアンケートのときに、しっかり議員間で議論して、それで削減するかどうかを決めるべきだと答えたと思うんです。ずっと傍聴して今日まで来て、これだから削減しなければならないという点が、どうも見当たらないと。

私が一番憂慮しているのは何かというと、投票率なんですね。昭和50年、定数26だったんですけど、投票率89.95%。前回は無投票ですけど、前々回、平成27年、投票率60.66%。実に30%も投票率が落ちていると。約1万人近くの人が投票に行かない、行けなかったと。それはどういうことに原因があるかも考えなければならないんじゃないかと思うんです。

平成の大合併で各市町村が合併して、地方議員が6万人から3万人に減っていると。議員が減った数だけ、やはり議会との、市民との間が離れているんじゃないかと、そういうところがやっぱり大事じゃないかと思うんですよ。そこを改革しないで議員を減らしたら、さらに議会離れが起こるんじゃないかと思うので、今回現状維持とさせていただいており

ます。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございました。

一応、暫時休憩とさせていただきます。

10時58分休憩

11時04分再開

○網谷委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を行いますので、よろしくお願いします。

それでは細川議員。

○細川議員 引き続きお願いいたします。

西村副委員長にお尋ねいたします。

無投票と議会は関係ないといった考え方、なかなか私にはできなかったもので、本当にユニークだと思いました。これは自由記入欄も併せて、無投票のいいところ、悪いところではなくて、成り手不足の問題として議会ですっきりと受け止めて、これを地域に投げかけて、地域の皆様にも一緒に考えてもらったほうがいいんじゃないかと。そういったことをおっしゃっていらっしゃるのかどうか、私が意味が取り違えてたらいけないので、少しその辺をお聞かせください。

○網谷委員長 副委員長。

○西村副委員長 御質問をいただきました。

無投票と議会は関係ないというのは、議員はどなたも選挙に通ろうと思って、議会活動、議員活動、選挙活動をやっておるはずですよ。だから議会が無投票を決めるんじゃないんですよ。市民の負託で議員に選ばれる。私は議会とは関係ないと、常に言ってきました。

むしろ、今細川議員が言われましたように、議員としての資質、どうしたら議会でのいうことのほうが、議会活動の中で考えるべき。それには地域から選ばれる議員が出てくると思います。そういう意味では、市民の皆さんに、自分の考えを理解してもらい、これが全て議員活動なんです。もっともっと地域に皆さん出向いていってもらいたい。これは私の本音でございます。

以上であります。

○網谷委員長 ありがとうございます。

細川議員。

○細川議員 自分自身の議員活動を見直せといった、厳しいお言葉をいただいたように思いました。ありがとうございます。

では、児玉議員にお尋ねいたします。

減らすべき中の理由に、少数であっても品位と質が保たれている、品格ある議会を目指すべきであると書かれておりますが、どういうことなのかなというか、投票になればこの品位としては保たれるとお考えなのかどうか、教えてください。

もう一点、2名にした理由は、先ほどの中で分かりましたので、特になければ結構です。お願いします。

○網谷委員長 児玉議員。

○児玉議員 細川議員の質問に答えたいと思います。

品位がある人って、誰も分からないですよ。スーツ着とるけえ、頭ちゃんと散髪しとるけえ品位がある人、作業服着とるけえ品位がある人なんて、ないんですよ。でも、先ほど言ったように、市民に投票の権利を与えなければ、市民に選ぶ権利がなくなるわけですよ。背広を着た人がいい人もおれば、作業服着た人がいい人もいます。それは品位というのは市民が投票して選ぶことなので、先ほどから何回も言ってますけど、やはり必ず投票はしなければいけないということで、定数14になれば多分投票が、選挙が行われるということで、品位がある人が選ばれると、私は感じたということでございます。

2番目の、1名でなくて2名にした。先ほどちょっと付け加えたいんですけど、やっぱり1名にすると、どうしても最終的に結論が決まるのに議長に負担がかかってしまうんですよ。そういうのも避けたいということもありますので、付け加えたいと思います。

○網谷委員長 細川議員。

○細川議員 児玉議員、ありがとうございます。投票になることによって、より品位と質が保たれる、そういう方たちが議員になってくれればよいと願っているということで、私も願っております。ありがとうございます。

では、山崎議員にお尋ねいたします。

これ、過去に遡って書いてくださってあるので、私もちょっと過去のを読み直してみたいんですけども、過去にも人口減が理由で削減したというような表現の仕方をされていたと読んでんですけど、私の読み違いなら訂正してください。平成15年、19年、2回やっていますが、両方とも財政問題だったように思います。

あと、私のこの書き方が変だったんですけど、この人口2,000人に対して1名とするのは、確かに指標として出ておりますが、そういう意見もあったという書き方であって、これを結論として書いてあるわけではなかったように思われます。先輩議員たちがどういう議論をされていたのかというのは、私どもももう一回読み解いてみてもいいのかと思います。ということで、人口を定数の指標にするのかどうか、するとしたらそれが一番の理由になるのかとか、もう少し議論したほうがいいと思いますが、山崎議員のお考えをお聞かせください。

○網谷委員長 山崎議員。

○山崎議員 ありがとうございます。

平成15年、平成19年、財政問題という御指摘をいただいております。私、このことについて勉強不足でして、財政問題、人口問題が理由だったのかということについては認識しておりません。

平成15年の報告書の答申の中に、議員1人当たりおおむね市民2,000人とするという記述があったもので、それを引用させていただいたということでありまして、細川議員が言われるように、人口を定数の指標の一つにするということであれば、もう少し議論することについて、私は賛成であります。

むしろ私が重きを置いておるのは、市民世論、市民の動向がどうなのかということを経年も考えており、そういった意味においては、ちょっと古いとは思いますが、平成26年の

4,500筆の議員定数削減の陳情があったということをしっかりと考えた上で出した結論であります。人口を指標にするのであればもう少し議論が必要ということについては、私も異議はございませんので、そのようにお答えをさせていただきます。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

細川議員。

○細川議員 山崎議員、ありがとうございます。議論がもっと必要だという点については、意見が同じだったと思います。うれしいです。

では日域委員にお尋ねいたします。

半減すれば無投票にはなりにくいと書かれてますが、これはどういう根拠でしょうか。総務省の出した数字では、定数が少なくなるほど、どちらかというとな無投票の傾向があるという意味では、少なくすると今以上に無投票になっていくというおそれがあるなと思うんですけど、そこをどのように考えているか。

もう一つ、少数精鋭論、これは私も一つとして思っている案でございますので、うれしゅうございます。ただ、どうしたらもうちょっと議会の中で議論できるのかなという辺りに、お知恵があれば教えてください。

○日域委員 先に2番目から言いますね。児玉議員がさっき、上手なことをおっしゃったので、私、感心して聞いてましたけど、やっぱり市民が直に選ぶ、だから何人がいいっていうよりか、今回無投票っていうのはあまりよくないよねっていう、どこの法律にもよくないと、いけないとは書いてないんですけれども、無投票を避けるということでしょう。そうすると、半減すれば無投票になりにくい、の根拠はどこだって、それは1減、2減もあって、半減も、ある意味同じ方向を向いてますからね。

実は、議員定数を減らしたら無投票になるっていうのは、車の運転に例えたら、時速100キロで走っている車が90キロに減速する。ブレーキ踏んだら当然、前向きの加速度が発生して、乗っている人間が前にこうなりますよね。そういうことですよ。だから100キロのスピードから50キロに減速したら、それは相当前向きのGがかかりますから、それが選挙を誘発するというか、そういう力になる。

ただ、時速50キロで低速走行になったら、慣性の法則で、微分的な発想かもしれませんが、減らすっていう行為の中で投票が誘発されるのであって、もう大竹市は定数16人が、いつか知らんけど8人になったんよって。定数8人で、もう長いことだったんよっていう時代になれば、皆さん8人を当たり前と思ってますから、そのときにはそれなりにチャレンジな人が少なくなれば、無投票ということもあり得るでしょうね。

市長選挙は定員1ですけど、無投票でしたからね。だからそれは、例えにならないかもしれませんが、減らすこと自体で、少なくとも次の選挙は、現職が16人いるわけですから、あるとき急に14人やめた、とかなったら、半分よねってなったわけですよ。答えになっているかどうか分かりませんが、よろしくお願いします。

○網谷委員長 ありがとうございます。

細川議員。

○細川議員 2点目はよく分からなかったんですけど、半減すれば無投票になるという意味は、よく分かりました。徐々にやるんじゃなくて一気に半分にすれば、投票になるだろうということですね。ありがとうございます。

では、寺岡議員に、次にお尋ねいたします。

たくさん、とても大切なことを書いていただいて、ありがとうございます。これ全体を読ませていただいて、要するに大竹市議会はどうあるべきかという議論をもっと先にするべきじゃないかといった御提案かなと思ったんですけど、その辺どのようにお考えでしょうか。

○網谷委員長 寺岡議員。

○寺岡議員 おっしゃるとおり、定数の議論、その前に深めておかなければならないこと、同時にテーマを上げて議論をしておかなければならないものが多々あると考えています。

内容については、私が気がついたものについてはアンケートの回答のほうに記させてもっていますが、総合的に言えば、将来に向けて継続的に市民のための大竹市議会であるために、市民福祉の増進と議会制民主主義の全うという基本的な観点を外れずに、大竹市にマッチしたものを探っていかなければならないかなと考えています。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

細川議員。

○細川議員 それぞれ意見の違いはありましても、納得の行く御回答をいただきまして、皆様、ありがとうございます。

全体として一番思ったのは、最初の議長から、議長会では無投票になっているといったのが増えているというのを受けて、議員の成り手不足に言及して、どうしたらいいかというのを、提言とかも出していて、それが特に小規模において問題になっているといったような御紹介をいただきました。それに尽きるかなと思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

それでは、今回の事前通告の最後になりますが、寺岡議員、よろしくお願いします。

寺岡議員。

○寺岡議員 私、空気読まずに全員に質疑を考えてきて、お知らせしとるんですが、委員会がどういったものになるのか想像できずに、皆さんにはお時間をいただくので申し訳ないんですが、お付き合いよろしくお願いします。

なお、テンポよく行きたいので、1問ずつ伺っていてもよろしいですかね。1人の議員さんに2点あったりする場合もあるので、いいですかね。

○網谷委員長 それはいいと思います。

○寺岡議員 ありがとうございます。

じゃあ、1番の賀屋議長に。アンケートを拝見して、万が一ほかの市町議会が根拠もなく思考を停止して、周囲に流されて定数削減しているケースがあった場合は、私自身は地方議員の一人として、共感性羞恥をもって見守ります。賀屋議長におかれては、どのよう

な視点で他市町を御覧になっていますか。

○網谷委員長 議長。

○賀屋議長 ありがとうございます。

この定数問題は、他市町もずっと大きな問題としてとらえて、削減に向けての協議会ないしは特別委員会を設けて議論をしているというのが現状かと思います。実際にその議論の結果、削減に踏み切るというところも多々あると思います。

例えば隣の岩国市は、この10月に選挙やりますけれども、この選挙も定数30人から28人に削減。前回の選挙も定数32人から30人に2人減らし、議員定数の削減に踏み込んでおられると。さらに向こうの柳井市も定数18人に減らしているということでございます。また廿日市も前回選挙で2人減らし、さらに次の選挙についても、議員定数の削減について議論をしているということでございます。先ほど小中議員からもありました、江田島市の定数削減もありましたし、この周辺では、多くの自治体が定数問題にきちんと向き合って、削減という結論で方向性を見出している。

それは人口減少に対しての一つの対策、方策に限るんだろうと思います。人口が増えていくのであれば、当然議員の定数も増やしていけばいいかも分かりませんが、先ほどからありますように、私も周辺市町の削減問題も考慮しながら、大竹市の人口が3万人のときに決めた定数16名。来年、改選を迎えますけれども、人口4,000人も減って、また周りの市町が削減しているのに大竹市は何も手を打たんのかと、周りからも見られるし、市民も当然そういう感覚を得るんだろうと。

それは議会の中で決めりゃあええ話やけ、議会が現状維持ということで決めればそれでもいいかもしれませんが、じゃあ逆に、いつ、どういう事態になったら削減するんかということも真剣に考えていかないと、もう人口が今から増える予想はありませんよね。人口が幾ら減ったら削減に踏み切るんかと、その辺の目安は全く持ってませんよね。

そういうこともあるので、やはり前回無投票ということもありましたし、児玉議員も言っておられましたけれども、今回は仮に1人削減をして、1人削減というのは私の案ですけれども、それで仮に無投票になったとしても、議会としての自助努力はしましたねと、市民に対して説明はできるんだろうと。これは現状のままで、また結果的に無投票になれば、それこそ議会は自分たちの身の安全だけを考えて、ほかに何も考えることはないんかという批判にさらされると、そのことが、大竹市議会が批判されることが、議会離れ、政治離れにつながっていくんだと思いますので、やはりその辺は慎重に、かつ市民の感覚というものを大きく議会としても無視はできないと、そういう意味合いで、今の質問の視点としては、当然周りの市町の状況、それと人口減少を考慮すべきという判断で、今回の判断に至ったということでございます。

○網谷委員長 寺岡議員。

○寺岡議員 では2点目お願いします。

欠員があったときに運営で支障がなかったと述べておられますが、そのときは期限があるという前提で、減員運営でのモチベーション維持があったと思っています。今後、より効果の高い議会運営、議会の審査を目指して真剣に議会改革を進めていくことになると思

いますが、その改革の実行者の人員が確保できなければ、改革の内容が大きく制限されると思います。

その人員を削減するということは、現状の運営からあまり変化を望まないを受け止めることもできますが、いかがでしょうか。

○網谷委員長 議長。

○賀屋議長 人員が確保できないということは、改革の内容が大きく制限されると質問されていますけれども、先ほどからありますように、少数精鋭という言葉もありますし、過去だって、定数削減をしてきているわけですよね。そのことによって、議会の機能が、あるいは改革の内容が、大きく制限されていったのかと。むしろ逆ではないかと思います。少なくなった中で議論が深まり、そのことによって改革が進められるということもあるんだろうと思いますので、必ずしも1人減になったから改革の内容が大きく制限されると考えておりません。

以上です。

○網谷委員長 寺岡議員。

○寺岡議員 では3点目です。

欠員の期間があった背景に言及された上での、1名減で15名の提案ですけれども、賀屋議長の言葉をお借りすると、15名で欠員が出た場合は、今度は14名で暫定的に議会運営。その14名で支障がないとなれば、14名が定数。さらに欠員が出れば13名で暫定的に議会運営、13名で支障がないとなれば13名が定数になって、また欠員が出たら12名となりますが、その場合の歯止めと、こうなったときに市民のための議会制民主主義の確保について、お考えをお聞かせください。

○網谷委員長 議長。

○賀屋議長 今の御質問の、定数と実数ですね。例えば途中で辞められたり、あるいはお亡くなりになったりということで、定数16名であるけれども実数は15名であると。15名でもできたんだから、定数15名でもいいじゃないかと、実数イコール定数になり得るんだという考え方で1人ずつ減らしていても運営に支障はないと書かれていますけれども、それはあくまでも実数の話であって、定数は議会が、議員定数の条例改正を行うことによって決まるんであって、その都度、その時点での議会の議論の中で、定数条例が可決されればそうなるかも分かりませんし、それはそのときの議会の判断であらうかと思います。

ですから、今の段階でこの15名からいきなり12名になるわけではありませんので、この質問は極端な質問ではないかなと思います。私が15名で支障はなかったら15名でもできるんじゃないかと言ったのは、あくまでも現時点の削減1名でも運営上は支障がないという意味合いでございます。

それと、先ほど言いましたように、定数問題はその都度、議会で議論して決定をしていくということですから、この会期中の議会の中で、議員定数を15名にしたり、16名にしたり、定数条例の改正案を2回も3回も続けて出していくという事はあり得ません。やるにしてもですね、1回しかできないと思います。その辺の議論を今しとるわけであって、ここに書いて質問されとるような状況にはならないと思います。

また、そのことを決めていくのが、この議会制民主主義の議会の役割でもあるし、勝手に私が独断で、それじゃ決めますということにはなりません、ということで御理解をいただきたいと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

寺岡議員。

○寺岡議員 賀屋議長、どうもありがとうございました。

次に、末広議員に。当選間もない中で、しっかりと議事録を読み込んでおられ、3年前の無投票という現象から端を発していることは御理解をいただいているようです。これまで御意見を伺う機会はありませんでした。無投票の回避や成り手不足解消のための手段について、何かお考えがあればお聞かせください。

○網谷委員長 末広議員。

○末広議員 御質問ありがとうございます。

私、無投票が定数減と因果関係はないと、無投票の回避のために成り手不足の解消を考えていこうってアンケートには書かせていただいていたと思います。

成り手不足の解消のため、ほかの自治体で言われているように、報酬アップとか、やり方を変えてみるとか、そこら辺をここで私が言ってもしょうがないのかなと思うので、私なりのお話をさせていただければと思います。一言で言えば、ほかの自治体のやり方とは違うやり方をしなきゃいけないかなと思ってます。

理由としては、当然なんですけれども、ほかの自治体と大竹の成り立ちは違います。人口の在り方、定数がこの人数になってきたなり方と全然事情が違う中で、大竹だけの定数を考えるべきだと、私は考えています。

そんな中で、ほかの自治体と差別化を図って活動していく必要があると考えているんですが、皆さん、ブランディングって言葉を聞いたことはあると思うんですけれども、ここ10年ぐらいビジネス界ではやりになった言葉ではありますが、自分や自社の強みを理解し、他者との差別化を図って、それを広報戦略に乗せてマーケットを広げていくやり方。そうした工夫をしていかないと、同じやり方をしても見てもらえないという現状があります。

ただ、議会の中で各自治体が、強みを持っていくっていうのは、4年に1回メンバーも変わるわけですし、その中で強みを持っていく、強みを持たせていくことは非常に難しいと思います。ただ、やり方自体は差別化できるはずです。

今広報広聴特別委員会、傍聴させていただいて、前々回、寺岡議員がツイッターのやり方の模索をされて、キャラクター等を考えてこられてたと思うんですけれども、同じツイッターを使うとしても、そういったキャラクター性やストーリー性を強くして、独自性を出してほかの自治体と差別化していく、見てもらう工夫をすることが非常に有効なやり方だと考えます。

ただ、これを市議会だけでやっていくのは非常に難しいのかなと考えてます。非常に多大な労力と工夫が必要になってきます。これは完全に自分の意見なんですけど、先ほど定数減の経費の削減の話しましたが、例えば定数減で経費が減ったとして、それを広報

に回してみたらどうか。予算をそこに回して、広報に力を注いでみるのはどうかと考えました。

先ほどのツイッターですけれども、自分だけ、議会だけだとマーケットの専門家もいないですし、なかなかエネルギーも割けないところで、外部に全て任せるわけにはいかないですけれども、そういった知見を得るところに予算を割いたり、議会のホームページは考えられたこともあると思うんですけれども。もうちょっとしっかりしたサイトをつくってみるとか、ウェブやLINEを用いて議員に声が届きやすいような仕組みをつくるなど、いろいろ考えられるんじゃないかと思っています。

そういう工夫も加えて、議員一人一人がプレーヤーであるべきなのかなと思っています。これについてはいろんな意見やリスクもあると思うんですけれども、議員が単なる市民の御用聞きにならないよう、自分も積極的にまちづくりに参加し、活動することが非常に重要になってくることだと思っています。ただ、いろんなイベントを手伝いにいくというよりは、自分で企画して運営して、自分の人となりを分かってもらおうということが大事なのかなと思っています。その活動が、さっき言った広報にも相乗効果になるんじゃないかなと思っています。

あと、最後に選挙のやり方も変えていくべきだと考えます。いろんなところでお金がかかる、地盤がないと大変ってような意見があって、あとは選挙カー、宣伝カーがうるさいなども、よく聞く話です。そういったやり方を大竹だけで変えてみる、議員の中で、議員の押しで変えてみるのも、一つの手なんじゃないかなと考えております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

寺岡議員。

○寺岡議員 末広議員、ありがとうございました。

次に、藤川委員に伺いたいと思います。

近い将来、議員定数を削減しなければならないときが来るという御意見を、アンケートに書かれております。これについては感覚的、動物的には私自身も頭によぎることではございますが、何年後にどのような社会状況かは分かりませんが、それは令和4年の夏、今の時点で、既にもう将来削減しかないというお考えでしょうか。

○網谷委員長 藤川委員。

○藤川委員 寺岡議員、御質問ありがとうございます。

私の、これは意見ですね。現時点で、将来、議員定数削減のときは必ず来ると思っております。理由は、日本の総人口が経済成長で伸びているときに、日本の人口は増えているのに、大竹市の人口は昭和50年、1975年をピークに、どんどん減ってきております。

日本の総人口は、2008年をピークに減少を開始しました。2022年には出生数が80万人を割り、政府予測より20年前倒しの少子化という記事を目にしました。少子化のスピードは物すごく上がっておりますよね。大竹市の推移を見ましても、近い将来、2万人を切る時代が必ず来ます。今、大竹市の出生率、1.40だと思います。2人に対して1.4人しか生まれていない。必ず大竹市の人口は減ってきます。それが近い将来、必ず2万人を切る時代

が私は来ると思っております。今の私は人口に対して議員が何人必要とかいう意見を持ってません。何人要るのかっていうのも分かりませんが、人口が何人になったら何人定数を減らすとか、今ここで言えませんが、必ず人口減による議員定数削減は来ると思っております。

以上です。

○網谷委員長 寺岡議員。

○寺岡議員 藤川委員、ありがとうございます。

続いて、原田委員に伺います。

1点目。報酬ほか合わせて1名減分の予算でどのような行政サービスを実現したいのか、漠然とで構いませんので、教えてください。1名減分、1,000万、いろいろな事務的なものも全部ひっくるめてかからない程度だと思うんですけど、その経費の捻出、今16名の時点で、実質公債費比率にどういうふうに影響するのか、あと議会費が削減された結果、原田委員が望まれている政策に予算が配分されていく仕組みが、私は受け止め方、苦慮しておりますので、お話を聞かせてください。

○網谷委員長 原田委員。

○原田委員 質問ありがとうございます。

私の書き方が悪かったのかなと思うんですけど、1名分の歳費ということだけではなくて、その先に議員の数が減ってくれば、議会事務局の職員の削減、視察の見直しとか。あと、もっと言うところのまちの規模で、今の職員の役職というのもの、かなり多過ぎるような気がしております。そういうものと実質公債費比率というのは、別に考えてはいるんですけども、実質公債費比率が10%を切るまでというのは、ある程度そういう我慢とか、行財政改革というのが必要になってくるんじゃないかと思えます。

実質公債費比率だけではなくて、将来負担比率であるとか、経常収支比率というものの勘案して、全体として物事を考えていかなければならないと考えております。大竹市の場合は、福祉の増進という面において予算の配分がまだ少ないと思っておりますので、そういうことも全体としてやっていった中で、福祉の増進を進める上においての予算を配分していただきたいと。

すぐに浮いた分をどうこうするというのではなくて、行財政改革をしていく中で、福祉の増進というところに予算を配分するべきではないかという考えがございます。

○網谷委員長 寺岡議員。

○寺岡議員 2点目、2035年と、10年以上先を見る視点を持っておられる一方、将来の大竹市を考えた令和4年現在の定数を考察するときに、なぜ即効性を優先させるのかまだ理解に至っておりませんので、もう少し詳しくお考えをお聞かせください。

○網谷委員長 原田委員。

○原田委員 先ほど細川議員の質問で、人口問題について少し触れたと思うんですけど、今回の無投票ということにかかわらず、この16年、定数は変わっていません。4,000人も人口が減っていますので、当然議員定数も減らしていかなければならないだろうと。

10年先のことも考えているんですが、16年前のことも考えて、人口が減っていく中で、

これは基本条例の中に書いてあると思うんですが、将来のことも考えて議員定数は考えるべきであるということで、私なりにアンケートに書かせていただいたんですけども、そういう数字を、将来的にこれぐらいであろうということから、定数15名という数字を挙げました。

この質問は、これで終わりです。

○網谷委員長 ありがとうございます。

寺岡議員。

○寺岡議員 原田委員への最後のお伺いなんですが、アンケート回答の文脈では、無投票と定数の因果関係は特に肯定しておられません。ですが定数1名減を、無投票回避の有効な手段として受け止めておられますが、その真意を図りかねておりますので、お聞かせをお願いします。

○網谷委員長 原田委員。

○原田委員 やはり投票で選ばれることが必要であると私も考えております。

今回無投票と定数の因果関係というものはないのかも分かりませんが、人口が減ってきているということから、やはり1名減らすこと。人口が減ってくると、選択肢は狭くなるということ。ただ2名としなかったのは、さすがにいきなり2名というのは、市民生活に与える影響も大きいのかなと考えておりますので、まずは1名減ということで。これが現状維持では無投票になる確率が、1名減よりは高いと考えましたので、1名減として、これが私としては無投票を回避する有効な手段であると考えております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

寺岡議員。

○寺岡議員 原田委員、ありがとうございました。

続いて、小中委員に伺います。

1点目。議会における良質な人材とは何か、個人的に基準をお持ちですか。また小中委員のおっしゃる良質の議員が、定数の何割いれば良質の議会と言えますか。

併せて、過去に競争があった2期以上はともかく、競争がなかった1期目の議員は良質でないと読み取ることができますが、これは謙遜と受け止めてよろしいのでしょうか。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 議員の資質っていう話が先ほど出ましたが、その資質を向上させるためには、私は荒療治が必要だと。そのためには議員定数削減は、不可欠だと思います。

どういう議員が良質かというと、まず自分が頭で考えて、おかしいと思ったらこれを解決するにはどうしたらいいかと。自分で調べず、何でもかんでも議会事務局におんぶにだっこじゃなくて、自分の頭で考える、そういう議員が少なくとも14名は必要だと思います。

それと、1期目が良質でないということは言えないと思います。ただ、その議員が資質があるかないかということをも市民が判断する機会が無投票で与えられなかったという事実があります。だから良質でないというのは、曲解もいいところだと私は思います。

○網谷委員長 寺岡議員。

○寺岡議員 次に、アンケート回答にあります、議会が市民に迷惑をかけるとありますが、議会が市民にける迷惑というのは、どういったものを想定しておられますか、御示唆をお願いします。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 これは言葉のあやで、先ほども説明しましたように、定数削減したからといって、本当にその住民の意思が届かなくなるのかと、そういうことはない。議員が定数が減ったからといって、市民に迷惑をかけることはないという意味で表現しただけの話であります。要するに問題はないと私は言いたいということです。

○網谷委員長 ありがとうございます。

寺岡議員。

○寺岡議員 小中委員、ありがとうございました。

続いて、中川議員にお伺いします。

中川議員の御意見は、現状維持というよりも増員がふさわしいというお考えのほうか、より濃くにじみ出ていると感じました。このたび現状維持に丸をつけられた理由はあるですか。私の誤解であれば、大変申し訳ありません。以上。

○網谷委員長 中川議員。

○中川議員 ありがとうございます。

先ほども申し上げたんですけど、1万人近い有権者の方が投票に行っていないということが、議会離れの問題だと思っております。私も議員になる前、3年前ですけど、ほかの委員の方もおっしゃってましたが、議会は別に関係ないよねと、議員数が減っても別にええじゃん、という考えでした。だけど議員になって、今16名おります、16の意見がある。そういう意見もあるねと、すごく感心したこともあります。だから、一概に削減ということは言えないんじゃないかと思っております。

議会の権限というのが、条例、予算決算、市町村合併などの重要事項、契約や財産の取得処分まで及んでいると。こういった重要な課題を本当に審議してやるには、合議制が必要だと思います。例えば、10人おって6人が減、10人が現状と。10対6ですけど、これが10人になったら10対ゼロかもしれない、6対4かもしれない、それは分かりませんが、きちっと割合になるわけではないと思います。

だから市民の1万人近い有権者の方が無視をしているという、ここに問題があると思うので、市民の方から、やっぱり私の知っている人が議員になってほしい、この人を推薦したい、この人議員になんとか協力してもらいたいよねという声が盛り上がってきて、その時点で、じゃあ16人でいいのか、定数は何人にしたらいいのかということが、私は大事だと思うので、感じ方からしたら定数が増えたほうがいいんじゃないかと感じたかもしれませんが、現時点ではそういう意味です。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

審議の途中ではございますが、お昼に近くなってまいりましたので、暫時休憩したいと思います。再開は13時からでよろしく申し上げます。

11時53分休憩

13時00分再開

○網谷委員長 休憩前に引き続き、会議を続行いたします。

それでは寺岡議員の発言からお願いします。

寺岡議員。

○寺岡議員 では先ほどに引き続いて、テンポよく行きたいと思います。

小田上委員への質問ですが、整然と御自身の意見を述べられた最後に、今後この議論は続けていかなければならないと締めくくっておられます。具体的にどのような項目、手順で議論の場を組み立てていく必要があると考えておられますか。フローチャート風にお示しくださいませ幸いです。

○網谷委員長 小田上委員。

○小田上委員 では質問に答えたいと思います。

16人の定数維持という立場でアンケートは書かせていただいています。

このフローチャートでっていうふうに寺岡議員に言っていただきましたが、大前提として、市民からの意見を吸い上げる構造、あとは多様な議論を求めるのか、シンプルな議論で人数少なく、少数精鋭で決めていくのか、どちらの方向に向いていくのかを決めていく作業をしないといけないと思ってます。今回、定数の話が始まったのは、無投票であった、成り手不足なんじゃないかという点から始まっていると思います。

フローチャートで話す前に、実際に市民の方からどう思いますかっていう話を聞いたりしています。その中で、現状維持と言われている方もかなり多くおられます。その中から一部紹介すると、成り手がなくて、でも定数ぴったりだったじゃないかと。自治会の役員は成り手不足で、もう変えられなくて、どうしようもないところがあると。でも、じゃあ役員、成り手がいないから減らすってなると、今までやってたことができなくなると。議会も一緒なんじゃないのっていうことを言われたり。あとは、そもそもこの議員が100%の仕事をやっているかどうか分からないんだから、この100%の仕事をしたら、もっといい仕事ができるんじゃないのと。そっちのほうに力を注ぐのが市民のためになるんじゃないのっていうこともありました。

もちろん削減の意見の方もおられて、その中では、議員報酬を上げて、議員を減らすと。削減した分の報酬をそのまま上乘せして、その財源を、ちょっとでも魅力づくりに使えばいいんじゃないか、そういうふうに言われる方もおられました。

ほかには、近い友人とかに聞けば、おまえが議員やってるのはいいし、やってほしいんだけど、ほかの人は分からないから減らしたらいいんじゃないというような意見がありました。これ、全体的に何が言いたいかというと、議員の仕事の中身っていうのがつかみ切れてないんじゃないかなっていうのが、全体的に話を聞いてて、思いました。

なので、そこを踏まえて少し長く書かせてもらったんですけど、議会からの情報発信というところで、ホームページの素早い更新、SNSの掲載、あとは今、広報広聴特別委員会でも新たな取組として協議はしていますが、SNSだったり傍聴に来られた方の意見の聴取、そういうところ、どんどん強化していったら、市民と議会が関わっているんだって

いう接点を増やしていく作業が必要だと思います。

その作業を行った後に、定例会ごとぐらいに意見交換会を開催して、今回こんなでした、皆さんどうでしょうかという意見を、常に市民と対話をしていく機会をつくる。こういうふうにして、議会が日頃どういうことをしているのかというのを積極的に伝えていかないと、議会への期待も生まれませんし、議員への期待も生まれてこない。それを生んでくるような活動をして、その結果仕事内容の把握をしてもらえる。

そこまで仕事内容の把握をしてもらったときに、議会の改革の案について議会改革特別委員会で話をしていた内容、例えば議員定数の削減、あとは報酬増ですね。個人的には政務活動費、報酬というところはなかなか難しいと思います、心情的にも。今の議員の報酬が決して安いものではないと思ってます。政務活動費は月1万8,000円ですから、少し勉強に行ったりするともう足りなくなる事態もあろうかと思っています。そこを充実させてあげる。

そういうところの話合いだったり、市民に今度は近づいてもらう。一步目は、議会から市民に近づいて、情報提供して、一緒に考えて市民に近づいてもらって、意見を聴いて、最終的な方向性はもちろん議会が決める。その方向性っていうのは、今で言えば少数精鋭で行くのか、多数で市民の声を多く受け入れて、多様な議論を期待するのか。その手順を踏んでいって、議員定数っていうのを考えていかなきゃいけないかなと。

このプロセスっていうのは1回やったら終わりじゃなくて、もう改選ごとにこのプロセスをやっていないと、今の太田市においてどういう現状で、どういう議員のスタンスがいいのかっていうのは変わってくると思うので、日頃、常にやっていくっていうことを考えないといけないと思います。

なので、市民の方としっかり対話ができ、定数を変更するであっても、理由がしっかりと示せるような形であれば、削減に絶対反対という立場ではもちろんないので、そういう議論が後々に納得できるようなところを残していきながらできたらいいなと考えています。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

寺岡議員。

○寺岡議員 小田上委員、ありがとうございます。

次に、北地委員に伺います。

定数減により、現役議員に有利で新人候補のハードルが上がる、こういった記述がありますが、このプロセスはどういったものだとお考えでしょうか。

また、そういったことが実際に起こった事例、ほかの市町などでも、耳にされたことがあればお聞かせください。1点目、お願いします。

○北地委員 ありがとうございます。

この委員会、ほかの会派のメンバー、いろんな同僚とかと話した中で、端的に言えばこのハードルが上がるということにつきましては、現役議員はある程度、自分の票というのがあります。活動の中からの経験値もあるし、選挙戦についても有利に運べるという中で、

新人議員にとっては新しい票を開拓していかんやいけんといった中で、選挙戦を繰り広げていかなければならないと。やっぱりハードルが高くなるというのは皆さんの一致した意見でもあり、僕もある人に聞いたことがあるんですけども、その人もそういうことがやっぱり難しいんじゃないかと、お話をされたこともありますし、新聞やらそういったテレビとかの報道の関係を見ましても、そういうことも出てきているというのは事実だろうと思います。確かに新人にとってはハードルが高くなるというのは、言えるとは思っております。

○網谷委員長 寺岡議員。

○寺岡議員 2点目、北地委員のアンケート回答最後のところに、定数増員は現時点では現実的ではない、このようにありますが、それはなぜですか。何らかの理由によって増員が必要であっても、現実的ではないものだとお考えでしょうか。

○網谷委員長 北地委員。

○北地委員 増やすということについては、いろんな人に聞いてみますと、全くゼロではない。増やしたほうがいいという声はあまり聞かなくてこないということから、現実的ではないということが考えられると。今の財政状況の中で、増というのもなかなか難しいんじゃないかと考えております。真つ当な理由があれば、増も減も考えないことはないというのは言えるけど、そこは納得できる理由が今はないので、現状維持になっております。

以上です。

○網谷委員長 寺岡議員。

○寺岡議員 北地委員、ありがとうございました。

西村副委員長に伺います。

西村副委員長のお言葉をお借りして、定数問題と議員不足問題という言葉が使われていますが、この2点を切り離して考えておられます。この委員会の後期の発足の初期に、委員としてこの辺りの軌道修正の御意見を述べられなかった理由というのは、何かありますか。

○網谷委員長 副委員長。

○西村副委員長 理由はなかったもので、何も述べておりません。

○網谷委員長 寺岡議員。

○寺岡議員 では西村副委員長、2点目です。

西村議員におかれては、議員は地域の代表であるというお考えのようですが、自治会長と議員との役割の違いについてお聞かせいただけませんか。

例えば、〇〇町1丁目に議員がお住まいとして、同じ〇〇町の1丁目と2丁目との間に利益と損失が生じる議案があった際、議員は地域代表としてどのように立ち回るかを織り交ぜながらお話いただければ幸いです。

○網谷委員長 副委員長。

○西村副委員長 私は議員として、地域の代表じゃありません、市民の代表です。そして、今言われるように、1丁目、2丁目の利害関係についても、議員になって7年になりますが、私は自治会の役は一切お断りしております。利用は、幾らされても結構です。だけ

ど私はしゃしゃり出て、地域の役員は承っておりません。だから、損や得でなしに、1丁目、2丁目に関わったら両方がプラスになるような議会活動、議員活動をしております。

以上であります。

○網谷委員長 寺岡議員。

○寺岡議員 西村副委員長、ありがとうございました。

続いて、和田議員に伺います。

定数が現状維持となれば、どういった流れで新人議員が増えるのか、お考えをお聞かせください。

○網谷委員長 和田議員。

○和田議員 私は、前回の無投票のときに、これは議員を減らさなきゃいけないと、正直思っておりました。この最近までそういう考えでおったんですが、皆さんのいろいろな意見を聞いたときに、議員の成り手不足、これが一つの大きな問題じゃということで、さっき北地委員が言われたように、定数が減ったときに、現職の議員がすごく有利だと思うんですよ。新人議員はなかなかハードルが高いと私なりに思っております。それで、その議員成り手不足にならないためにも、今の16人の定数で今回は選挙されてはどうですかという、これは私の今の考え。

それと、前回の議会報告会のときに、こういう話がありました。市民の意見を聴いてどうするかというのがありましたが、私が聞いた限りでは、議員削減の意見っちゅうのはあまりなかったんですよ。これが市民の本音かどうかは分かりませんが、今の思った時点では、現状の16人でやられて、近い将来人口減、市民税が減ったとか、いろいろ出てくると思うんです。その時点で、また改めて議員定数を話されたらどうですか。それが私の意見です。

○網谷委員長 ありがとうございました。

寺岡議員。

○寺岡議員 和田議員、ありがとうございます。

次に、議員としての網谷委員長に伺います。

仮に議員定数が維持された場合、当市の発展に向けてどういった好影響が期待できますか。

○西村副委員長 網谷委員。

○網谷委員長 現状維持、今の時点で保たれた場合どういった好影響という問いではございますが、好影響とは、私は思っておりません。ただ、現状維持が変更になった場合の悪影響を、主に考えております。

前回の選挙で無投票というのは、全議員が不本意であるということは確かだろうと思います、私も含めて。議員数は、平成23年、国の法改正で各自治体に判断を委ねるという方向性が出ております。議員定数を議会、特別委員会で決めるシステムといいますか、昨年从这个議会改革特別委員会をやってきました、大変難しい問題であるということ、今もって感じております。

先ほどからの意見の中で、議員定数削減という数字を見ても、いろいろな意見の方がお

られます。現状維持は皆さん同じような感覚になったのかと思いますが、この定数の変更というのは物すごく難しい問題でございますというのは、身を持って感じております。平成23年の法改正の中でも、国でもそう結論が出なかったということだと、私は解釈しております。

なぜそれじゃ削減をするかということで答えますが、数字に表す公式というのは、私はないと思います。ということは、どうやって決めるのかと問いかけると思いますが、これはもう答弁にはならんかと思いますが、私の感性でございます。ただ、それで議員生活をやっておる次第でございます。

数字を求められても困るんですが、今回の議員定数の問題に関しましては、まだ定数を変更する時期ではないと私は思っております。未来永劫とは言いませんので、少なくとも来年度の時期、大竹市議会選挙が今回の現状維持でやっていくのが妥当ではないかと、私の気持ちの中では結論に達しております。

以上です。

寺岡議員。

○寺岡議員 網谷委員長、ありがとうございました。

次は、児玉議員に伺います。

アンケート回答にあるように、品位と質が保たれている、品格ある議会を目指すことは、私も大いに賛成です。ではそれに向けて、大竹市議会がこれから努めていくべき具体的な取組にはどういったことが必要か、お考えをお聞かせください。

○網谷委員長 児玉議員。

○児玉議員 寺岡議員には、賛成していただきましてありがとうございます。

議会基本条例の中にも、議員は市民の代表としてふさわしい品位を保つことと書いてありますよね。これはぜひ皆さんにも守ってもらいたいということでございます。

それで、具体的な取組ということがありましたけど、この場合は議員定数についてのことを話をしているので、具体的な取組と言われると、私はもう以前からずっと言っているように、議員定数の削減しかないと思っております。皆さんいろいろ難しい言葉で、SNSや情報発信や、市民の方とどうとかこうとか言われましたけど、この16人の定数のままで行って、来年果たして無投票を防げるのかということです。

14人になっても、無投票を防げないかもしれませんが、ある程度の努力はしたと。16人より14人のほうが無投票を防げて、市民の投票によって候補者の施策や考え方、品位等をもって投票することができると思っておりますので、具体的な取組というのは、議員定数の削減でございます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

寺岡議員。

○寺岡議員 児玉議員、どうもありがとうございます。

次が山崎議員に伺わせていただきます。

まず1点目が、ごく最近の物価高騰などで市民生活が窮屈になっていることは、私も体感しています。山崎議員は、このたびおっしゃっている市民生活が脅かされているとは、

大体いつ頃と比較してそのように分析しておられますか。また脅かされていない時代というのがあったとすれば、どの時代を指していますか。今後この視点で意見交換される場面があった際に、各意見の前提になればと思っておりますので、お聞かせいただければと思います。

○網谷委員長 山崎議員。

○山崎議員 御質問いただき、ありがとうございます。

私が申し上げております、市民生活が脅かされているということにつきましては、いつの時代と比較して脅かされているという判断をしたものではございません。リーマンショック以来、実質賃金が低下し続けておりまして、市民生活、国民生活が脅かされているということは、マスコミ論調でも報道もされておりますし、一貫して市民の生活は厳しくなっておるということを取り上げたものでございまして、じゃあいつの時代がよかったんだという判断にはたどり着いておりませんので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

寺岡議員。

○寺岡議員 では2点目です。

議会基本条例18条第2項で、議員定数の改正について、山崎議員は、3点目にある類似市との比較については研究しておられます。

一方で2点目の、市政の現状、課題、将来予測、展望について、このたびのアンケート回答にどのように反映されたのかをお聞かせください。選挙という意味ではなく、市政についてどう見ておられるか、よろしくお願いします。

○網谷委員長 山崎議員。

○山崎議員 ありがとうございます。

大竹市は、人口が減り、税収が減少する一方で、高齢化と貧困家庭の増大が進んでおります。これは大竹市のみならず、全国的にそういった傾向であります。そういった中で扶助費が増加するという厳しい財政環境にあるということは、皆様方も御存じだと思います。

その上に、このたびの新型コロナウイルス感染症の拡大によりまして、市民生活はますます厳しくなっていることも明らかであります。令和4年度予算案審議で示された財政推計では、今後の歳入見込額で、令和3年度以降、4年間歳入が減少し続けている。一方で、財政力指数も減少傾向であります。積立金については、3年度の決算見込額の52億円から、今後7年後には44億円と、8億円減少すると推計されております。あくまでも令和4年度予算案審議に出された推計値ですから、当然移動はあるものと考えますが、決して将来豊かな財政状況は見込めないものであると考えております。

また、起債におきましても、確かに大竹市の起債は年々減ってきました。しかしながら、人口1人当たりで割ってみますと、以前と遜色ないぐらいしか減っておりません。一般会計や企業会計を全て合計したものと、市民の人口2万6,000余りで、これ1人当たり換算しますと、多くは減っていないということからも、厳しい財政状況が続いておるという

判断をしたものであります。

今後とも、複数の公共事業が予定されております。事業を進めるに当たっては、地方債の発行は避けて通れません、数年後には公債費の増額も予測されます。しかしながら、市民の安心安全や福祉の向上、大竹市の豊かなまちづくりと魅力づくりなど、市民の要求は膨らみ続けております。こういった中でどのように市民の要求に応えるかが、市政にとって大きな課題であると捉えております。

平成2年度の決算審議における監査委員報告書では、中長期的な視野による財源の重点的かつ効果的な配分や、事務事業の継続的な見直し等による経費の削減が必要であり、より一層健全な財政運営と将来を見通した財政基盤の構築に努める必要があると述べられております。

以上のことから、今回の定数削減について、私が御提案を申し上げた次第でございます。以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

寺岡議員。

○寺岡議員 山崎議員、ありがとうございます。

次に、日域委員に伺います。

1点目、一般論という言葉も使っておられますが、その一般論が正しいと仮定したときに、日域委員の言われる質の高い議員とはどういったものをお考えか、御披露ください。

○網谷委員長 日域委員。

○日域委員 その前に、私がいつか議員のお仕事は、議案に対してイエスかノーか、それを決めることだって言いましたけど、その場面で単純に、市長の言うことには賛成なんよっという人もいるでしょうし、悩みながら、でも市長はこういう決断をして、この議案を出したんやねって、その考え方は私も賛成だというのがあれば、反対の人もいるでしょうけど、その議案に対して結論は、物すごく薄っぺらいんですよ。賛成・反対の2つしかないんです。

ただ、賛成か反対かに至る思考プロセスっていうのは、個人で相当差があるものだと、私は思います。そのときに、深い理解をした上で、その賛否を表せる議員でありたいというか、そういう方が質の高い議員かなと考えております。

○網谷委員長 寺岡議員。

○寺岡議員 では2点目。議員数を半減すれば当然無投票になりにくい、この日域委員の御意見には、瞬間的には共感できます。ただ普遍的なものではないように感じています。仮に、おっしゃるように半減したときに無投票が回避されるのは、選挙何回分ぐらいかのイメージはありますか。

また、議会費は報酬のほかに、事務局体制や先進地事例調査、政務活動費、議会図書室など多岐にわたって構成されています。議会費全体のバランスについてのお考えをお聞かせください。

○網谷委員長 日域委員。

○日域委員 要するに椅子取りゲームと思えば、椅子が減った瞬間に誰かあぶれるわけです

よ。それを選挙って言うんですね。皆さん、なりやすさって言うけど、選挙するっていうことはなりにくくするということですからね。なりにくいけれども、なりたい人はいてほしいってというのが、成り手不足ということですから。

だから椅子取りゲームの椅子を急に半分にしたら、しばらくはその競争状態が、1減、2減よりか半減のほうが効果が長引くかもしれませんが、そんなもんよって世間が思い始めたら、そこからまた水平飛行に移るでしょうね。それが何回分かっていってもイメージできませんけれども、その辺はもう適当な解釈ですけれども。

それで議会費や報酬のほかに、いろんなことがありますよね。ただ、大竹市においては、最近はやけに予算額が大きいですが、百何十億かのお金をどう使うかっていう案を、市長が基本的には出すわけで、それについて賛同を求められるわけですね、議会が。質問をしながら、いろんなことをチェックし、いいのにしましょうと決めるのが議会ですから、そのための経費が、1%ですよ。あまり大きなことではないような気がします。それよりか、我々議員が正しい理解なり勉強なりできるような環境をつくってほしいなど。

例えばお金のことだけじゃなくて、今シルバー人材センターがチラシ配りますけど、議員のチラシは配ってくれないとか。一定の制約をつけるのは当然でしょうけれども、やはりそういうのをつくってくれば、我々が市民に対して物事をお知らせしやすくなるんですね。私が3月に全戸配布しましたが、1回配るのに60万ぐらいかかってます。そういう意味でやっぱりお知らせする仕方もあるし、それから考える資料づくり。例えば登記でも、市の職員が不動産登記を調べるのは、公務って判を押したら無料ですからね。私が行ったらお金を取られるわけですよ。私も議会としてやるんだから、公務起票でやってくれたら手数料が要らないかどうか知りませんが、議員が、有能な議員であってほしいのと同時にその力を発揮しやすいような、そしてその発揮してやっている議員活動が市民に伝わりやすいような、そういう環境をつくってほしいと常々思っています。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

寺岡議員。

○寺岡議員 では、日域委員、最後に、自由記述に書かれているように、定数を決める絶対的な理論は、現時点ではどこにも存在していない、私もそのとおりだと思います。その議論というものの大竹市議会版、これからつくっていく気概を持つのは、私たち議員の責任ある立場だと思います。

それを日域委員、御一緒にいかがですか。

○網谷委員長 日域委員。

○日域委員 一緒になって言われたら、こちらこそよろしくお願いします。

以上です。

○網谷委員長 寺岡議員。

○寺岡議員 日域委員、ありがとうございました。

細川議員に伺います。

議会基本条例の前文解説でも、時代の変化、時代という言葉に触れてあります。このた

びのアンケート回答で、細川議員のおっしゃる時代に求められる議会について、今どのような時代で、どのような地方議会が求められているとお考えですか。

また、それについて大竹市議会に不足のものがあれば、お気づきがあれば御示唆ください。

○網谷委員長 細川議員。

○細川議員 寺岡議員、質問ありがとうございます。

議会に何が不足しているかというのは、私の立場では、偉そうに言える立場ではございませんので、私の考えを述べるということにさせていただきます。

まず一言で言うと、地方行政の在り方が、シビルミニマムからシビルマキシマムへ変わった。それに応じて議員の考え方、議会の考え方は変わっていますかということだと思うんですね。

ここに現在おられる議員の中には、2000年以前に選挙をされた方はもう既にいらっしやいませんが、2000年、平成12年ですよ、地方分権一括法が施行されました。これ以降の流れというのは、国と地方の在り方、国と県との在り方が劇的に変わってきた時代だと思っています。何が変わったかといったら、地方のことは地方のことが一番よく分かっている地方の皆さんで決めてくださいよ、それだけの権限を与えますよと、国・県の考え方が変わってきたということだと思います。

その中で市議会の役割も、かつては県や国が決めたことを追認するといった、追認機関としての役割が大きかったと思いますが、地域のことに主体的に関わってくるということが、市議会にも求められていると思います。

議会の在り方とか役割も市によって変わってもよいと法律が変わりました。議員定数が各市町の条例で決められるようになったということは、自分たちでどういう議会の在り方がいいか、自分たちで考えて、自分たちで決めなさいよということですよ。同時に、施策やそのほかの条例なども、自分たちで考える議会にならないといけないと思っています。

先ほどの議論にもありましたが、日本は人口減少時代に入って、経済成長も先が見通せないといった状況にあります。かつての拡大成長の時代、日本のどこに住んでいても同じサービスが受けられる、これがシビルミニマムですけれども、この考えから切り替えが必要な時代になって、もう久しいです。隣の町、隣の市、同規模自治体を見ながら横並びのことをする時代は、もう終わったと思います。

自分たちの町の強みを生かして魅力をつくれないと、生き残れない時代、いわゆるシビルマキシマムですよ。そのように変わってます。こういった時代のときに、議会の姿は、提案型の議会にするのか、チェック型の議会にするのか、どちらに行くのかというのは、まだ私自身の中で解答はございません。でもいずれにしろ、執行部に対してあれもやれ、これもやれと、そう言っていく議会ではなくて、大竹市のために、市民のために何が必要なのか、優先順位をしっかりとつけて、その上で提案をしていく、それができる議員、議会にならなきゃならないと私は思っております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

寺岡議員。

○寺岡議員 細川議員、ありがとうございます。

最後なんですが、これはアンケートの在り方について通告を出させていただいておりますので、伺いたいと思います。お答えは委員長か事務局か議長か分かりませんが、疑問に思いましたので、聞かせてください。

このたびのアンケートは、ホームページで公開するという前提で実施され、各議員とも、自身の考えに基づいて、責任を持って真剣に回答しておられます。それにもかかわらず、公表ページにたどり着くのは市のホームページ、組織から探す、市議会、議会事務局、議会の活動や記録、会議録、議会改革特別委員会、令和4年議会のアンケート結果であり、検索エンジンに、大竹市議会議員定数に関するアンケート結果と直接入力するように、議会の現在の取組をよく知って興味を持たれた方か、議会の仕組みに詳しく、かつこのページが存在していることを知っている方しかたどり着けない、奥深くに隠されています。このアンケート結果の公表を誰に閲覧してもらおうと思って、こういうことになっているのでしょうか。

ついでに言わせていただくと、せめて市に新着情報の表示への打診をするなり、フェイスブックで周知するなり、議会のトップに飛んだときに告知があるなりの工夫ができなかったのでしょうか。仮に4月の議会報告会の宣伝も同じような掲載で、反省会で参加者が少なかったと私たち議員が嘆いていたのだとしたら、事務局をはじめ、議会全体の恥であり、足元から考えなければならないと思います。いかがでしょう。

(発言する者あり)

○網谷委員長 議長、代表をお願いします。

○賀屋議長 確かに、ここで指摘されとるように、ホームページから容易に探せないということは事実かと思います。

いろんな声も耳にしますが、結局は本当に興味を持って、市民がそういう情報を取りたいという方がおられれば、それなりの努力もされるでしょうし、また議会事務局のほうに電話一本かけていただいて、どこに載っとるんかね、どうするんかねというのを聞いてもらえれば、もう少しはスムーズにたどり着くのかなと思いますし、今回のこの手順、あるいは掲載方法については、改善すべきところがあれば当然改善をしていくべきであろうと思っております。

以上です。

○網谷委員長 どうもありがとうございました。

寺岡議員。

○寺岡議員 議長、代表してお話しいただき、ありがとうございます。

じゃあ、最後に感想、まとめです。

私、もっと皆さんからアンケート、それぞれに対して伺いたいことがあるのかと思って、私もこの場を活用させていただくつもりで皆さんに伺わせていただきました。皆さんからあまり出てなくて、いろいろ御遠慮されたのかなと思っております。

私自身は、アンケートには現状維持と書いております。理由も、もう少し審議すること

があるんじゃないかというところなんですけれども、それぞれのアンケートへの質疑の場面を利用して、これまで委員会であまり議論されなかったことを、視点、視野を広げて、それぞれの考えが整理できる場面になればいいなと、そういう場の提供につながればいいなと思って、聞かせていただきました。随分とお時間を取って皆さんには申し訳ないという気持ちもあるんですけど、これまで出なかったお話も随分聞けましたし、御協力をどうもありがとうございました。また今後、あらゆる角度から議論が深まるように期待いたしますので、引き続きよろしくお願いします。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

以上で、事前通告は終了させていただきまして、皆さん長時間、かなり質問の回数が多かった方、また逆に少なかった方もおられたと思いますが、有意義な意見交換ではなかったかと、私自身は思っております。ただ、文章だけでは分かりにくいところもあったと思いますので、それはそれとしてよかったと思います。

以上で、日程1の予定は終わったんですが、よろしいでしょうか。ありますか、何か。

(発言する者あり)

○網谷委員長 質問を全部受けますとどうなるんじゃないかなと思ひましてね。どうしてもやると言えばやぶさかではございませんが、今日は16人の全議員の集まりでございます。議会改革特別委員会も、最終結論に向けての日にちも迫っております。特に今日、委員外議員の皆さんの意見をお聞きしまして、特別委員会の議論の参考にさせていただきたいと思ひます。

原田委員。

○原田委員 こうして全員が集まって意見交換するというのは、これが最後になりますよね。この委員の中から委員外議員の方にこうやって質問する機会というのはもう最後かなと思われるので、委員の方が、もし委員外の議員の方に何か質問があれば、1人1つぐらいは受け付けてもいいのかなと思うんですが。もちろん、なければならぬで終わってもいいと思いますし。

○網谷委員長 今の原田委員の意見でございますが、今これが最後になると考えておりますが、言い切れません、これは。またこれからどういうことが起こるか分かりません。最後といえ一応最後ではございますが、というふうな言い方をさせていただきます。

原田委員が、委員の皆さんが委員外の方に意見をお伺いしたいと言われたと思うんですが、委員外議員に意見を聞くということは、委員外議員もやはり1人ずつ意見を聞かんと不公平なような気もするんですが、原田委員の言うようにすればいいよというんなら、それでも結構ですけど、皆さん、どう思われますかね。

(発言する者あり)

○網谷委員長 山崎議員。

○山崎議員 貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございます。

若干長時間になりまして、私も若干疲れ気味なんですありますが、事は重要でありますから、それぞれがフリースークをするということでしっかりと意見交換をして、結論を導く

ということにしたらどうでしょうか。この場でなくて個々にしっかりと意見交換をするということにされたらどうかと思います。

以上です。

○網谷委員長 今回の山崎議員の意見も一理あるかと思いますが、これから後にどういう結論に向かうかは分かりませんが、委員の方も会派におられますので、逐次情報を入れたり、会派で会合を持たれたり、それは差し支えないと思いますので。そういうことでよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○網谷委員長 それでは、日程第1はこの辺で終了とさせていただきます。

それでは日程第2、そのほかで何かございますか。

なければ、これからのスケジュールを述べさせていただきたいんですが、よろしいですかね。

それでは最終結論に向け、日にち的にも差し迫っております。委員長の立場として、ざっくりとはございますが、スケジュールをお知らせさせていただきたいと思います。

次回、私の考えとるところでは、今月にもう一回ぐらい開きまして、その時点で最終的な協議を行い、今日の会議も含めて採決にするのか話し合いにするのか議論してまいりたいと思います。

9月12日に向けての内容を、次回の委員会で決めていけたらと思います。

それで、9月12日の特別委員会では決定させていただきます。それで決定したものは、9月下旬に、答申または最終報告書をつくらなければなりませんので、その最終報告書、答申についての審議を委員会で決定させていただき、議長のほうに答申、最終報告書として渡すという段取りになります。

議長に提出しますと、それからは議長主導の計画になろうかと思いますが。多少の前後の変更はあろうかと思いますが、その都度委員会で決定していきたいと思います。

何か、ここがおかしいんじゃないのかという意見がありましたら。

(発言する者あり)

○網谷委員長 いいですよ、今日は委員会、全部一緒ですから。

細川議員。

○細川議員 1つ確認していききたいんですけど、私も議会運営がまだ未熟なものですから、これ特別委員会ですよ。議長に答申をする立場ではないと思ってたんですけど。委員会として責任を持って結論を出して、それを全体に報告していただくのが流れかなと思ってたんですけど、ちょっとそこ、整理していただくとありがたいです。

○網谷委員長 その手続というんですか、その辺のところもこれから副委員長、議長、事務局も含めてしっかり検討していき、手続としてはまだ完全なところには行ってないのですが、今本当にざっくりとした言い方しかできませんのですが、そういう方向で行きます。

今、細川議員が言われたようなことがあれば、また手続の変化も出てくるかと思うので、よろしくをお願いします。

山崎議員。

○山崎議員 この議員定数問題の審議については、議長から諮問を受けたんじゃないんじゃないかな。ちょっとそこら辺のいきさつ、私の勘違いかもしれませんが。私は議長から諮問を受けて、議会改革特別委員会が議員定数について審議をしておるとのことだったと思いますから、そうであれば議長にお返しをするというのが筋なのではないかと思います。が、どうでしょうか。そこのところ、ちょっと確認させてください。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今までの協議の中で、議長からの諮問ではないかというような、そういう言葉も出たのは確かでございます。

その辺のところをもうちょっと確かめてやってみたいと思います。

小田上委員。

○小田上委員 正直、僕自身も期が浅いので、明確にこうだろうというのは分かりません。

ほかの委員会の話を出して非常に申し訳ないんですが、広報広聴特別委員会でも、この手順どうしたらいいだろうと迷ったときに、もっと事務局に助けてほしいなと思うんですね。事務局はそういうところのフォローをしてくれてもいいのかなと思うんですよ。

そもそも違うよということであればこの時間がもったいないので、違うとなったときには事務局が入ってフォローしてくれれば、終わるのかなと思うんですけど、いかがですか。

○網谷委員長 局長。

○三上議会事務局長 特別委員会は、議決を経て付議をされております。その中で、議長が必要と認める事項ということになっておりまして、この9月に議長から定数についてお話がありました。特別委員会で結論が出たということになると、通常の常任委員会と同様に、本会議場で委員会の委員長報告をするようになると思います。そこで最終的に議会としての決を採るのが一般的なのかなと思っております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

そういう議論も出てはおりますので、その辺のところを随時、我々も研究しまして、いいものにしていきたいと思います。

今ざっくりとした計画の流れを私が述べさせていただいたので、これが全てだと思わないでくださいということでございます。

何かあります。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○網谷委員長 なければ。

(発言する者あり)

○網谷委員長 今、私がざっくりとしか言えませんのでね。これ決まりましたら、委員会の皆さんを呼ぶか呼ばないかは分かりませんが、委員会でしっかり報告、または議論をしてまいりたいと思いますので、その辺のところは安心していただければと思いますが。よろしいですか。

(発言する者あり)

○網谷委員長 もちろん、そういうことで、今の件はこれくらいでよろしいですかね。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○網谷委員長 それでは次回の開催日を決めたいと思うんですが、来週、再来週はどうですかね。25日はどうですかね。

(「委員の方だけですか」と呼ぶ者あり)

○網谷委員長 そうです、すみません。

(発言する者あり)

○網谷委員長 それじゃ25日木曜日、10時からお願いします。

今日は特に委員外議員の皆さんには、1回目に引き続きこうして出席をいただき、我々委員会のメンバーの中の協議でも本当に参考になる意見をいただきまして、ありがとうございました。

これからもまた力を借りることはあるかと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは今日はこの辺で終わりにさせていただきます。

以上で、議会改革特別委員会を閉会といたします。

お疲れさまでした。ありがとうございました。

14時00分 閉会